

令和元年度 第1回

久留米市男女共同参画社会づくり表彰

団
体

津福校区まちづくり協議会

活
動
内
容

明るい豊かなまちの実現を目的として、校区コミュニティセンター運営や各構成団体の調整・連携、地域交流、行政との情報交換及び協働等に取り組んでいます。

受賞の理由

- ・久留米市校区まちづくり連絡協議会を構成する46校区コミュニティ組織の中で、唯一女性の会長である。
- ・協議会や団体の活動に女性の参画を促すとともに、会議等の意志決定の場へ女性を積極的に登用し、次世代の担い手を視野に入れた人材育成を図っている。
- ・まちづくりに多様な意見は不可欠という意識が協議会全体に根付いており、男女共同参画の視点でのまちづくりが進んでいる。

「できる範囲で楽しくやる」が女性の参画に繋がる

津福校区まちづくり協議会（以下、協議会）は久留米市にある校区コミュニティ組織の1つで、様々なまちづくりの取り組みを行っています。

「校区の取り組みには、行事への参加やボランティアなど住民の協力が不可欠です。多くの人に参画してもらえよう取り組んでいます。」と角会長は話します。

そのために大切にしているのが、行事への参加の呼びかけです。高齢者が家に閉じこもらないように活躍してもらう場をつくり、日頃から声掛けを行っています。最初は参加に遠慮気味だった人も「自分達でできることで良ければ」と校区の活動に参加してくれます。その結果、放課後子どもが多く集う学習見守りは、女性がサポート役の中心となって活動しています。しかし、活動はボランティアです。できる範囲で楽しく和気あいあいとやるのがとても大切です。



津福校区まちづくり協議会の皆さん



ふれあい班長会議。男性も女性も委員となり、参加します

女性の参画で地域防災力の向上

協議会では、今年度住民が参加する防災訓練を行い、多くの女性や大学生の若者等、約160人が参加しました。避難所の設置にあたっては、衛生班や食料班等様々な役割がありますが、それぞれの班は一方の性に偏らないよう必ず男女を配置し、固定的性別役割分担意識を押し付けられないような体制をとりました。そこで、女性は補助的業務ではなく、必ず責任をもった役割を担ってもらうようにしました。その結果、授乳室や更衣室、救護室、トイレの配置など、支援を必要とする人の部屋がスムーズに設置され、男女共同参画の視点での防災訓練を行うことができました。



徘徊検視訓練の様子



防災訓練の様子

まちづくりには女性も男性も必要

角会長は、PTA 会長を務めていた時期に、女性参画の必要性を認識していた当時の協議会会長から、校区活動への参画を依頼されました。最初は自分にはできるのかと悩んでいましたが、お父さんが「やってみれば」と背中を押してくれました。そこで、「自分にできることがあれば頑張ってみようかな」と思い参加するようになりました。角会長の真摯な取り組みは、周囲の信頼も厚く、角会長を中心とした活動の輪が広がるとともに「物事を決めるには、男性だけでなく女性の意見も聞かなければいけない」という意識が校区全体に広がり、今ではそれが当たり前になっています。角会長は、協議会の常任委員を務めた後、共同募金や交通安全委員、副会長を経て、3年前会長に就任しました。今は、多くの人の声を聞くことと「せっかく担った役なので楽しくやろう」という思いをモットーに、協議会の仕事に取り組んでいます。

協議会では、常任委員会や人づくり大学など、多くの委員会に女性が参画しています。また、PTA にも地域活動に参加してもらうよう働きかけています。このように様々な活動への女性の参画の機会をつくり、経験を積んでもらうことは、将来の担い手育成にも繋がっています。

「まちづくりに女性も男性も必要。その気持ちがこれからも当たり前のこととして根付き、津福校区が発展してくれればいいですね。」



角会長